

地本部長が高校生の授業で講話

自衛隊静岡地方協力本部長・定免克己1等空佐は、9月14日（木）、県立伊東商業高等学校（伊東市）3年生の1クラスにおいて、講師として公民の授業を行った。

静岡地本は、これまでも中高生の社会授業の一環として職業講話を行ってきており、今回は選挙権が与えられる18歳を迎える生徒たちに、社会情勢について考えてもらいたいという学校側からの依頼で授業が実施された。

定免本部長は、「日本の防衛について」と題し我が国を取り巻く安全保障環境や各国の防衛力、我が国の防衛のための取り組みなどを高校生にもわかりやすく説明を行った。生徒たちは真剣な眼差しでスクリーンを見つめ、重要などころをノートに書き留め現役自衛官ならではの説明に熱心に聞き入っていた。

最後の質疑応答では、生徒たちから自衛隊の仕事や任務について質問が寄せられ、自分たちが暮らしている国の防衛や安全保障環境について理解を深めた様子であった。

静岡地本は、今後も各学校における安全保障などに関する講話を積極的に実施し、地域との連携を大切にして、自衛隊に対する関心や正しい理解を深めてもらえるよう業務に邁進していく。



艇長母校の生徒が掃海艇「みやじま」を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、9月24日（日）、掃海艇「みやじま」の清水港（静岡市）寄港に伴う特別公開に、県立掛川西高等学校（掛川市）の生徒等を引率した。これは、掃海艇「みやじま」艇長の向川徳明1等海尉が同校出身であることから、地本部長が掛川西高校を訪問し母校関係者の参加案内を行い実現したものであり、同校の校長をはじめ教諭や生徒19人が参加した。

当日は天候に恵まれ、最初に「みやじま」を背景に艇長らと記念撮影を行った後、二組に分かれて艇内見学や処分艇の体験試乗を行った。参加者は、艦橋から見る海の眺めや水しぶきを浴びながらの処分艇体験試乗を楽しんだほか、水中処分員による爆発物処理の訓練展示も見学した。また、艇長から海上自衛隊や掃海艇の任務について説明を受けた際には掛川西高校OBとして激励の言葉もあり、生徒たちは感激した様子であった。

見学終了後、生徒からは「国防の任務にあたっている自衛官と直接話をするのができ、尊敬の気持ちを抱いた」「爆発物処理などいろいろな形で国防に携わっているということがよくわかった」という感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も部隊と連携し艦内公開等あらゆる機会を活用した積極的な広報活動に努め、学校関係者の自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くす。

